

## 第2回総合計画審議会における主な意見等

### 1 基本構想（骨子案）について

- ① 「清須市らしさ」という言葉が結構出てくるが、市民として生活する上で清須市らしさがあるのか。あまり強調し過ぎると、無理して差別化しようとする方向に流れるのが不安である。
- ② 「清須市らしさ」というアドバルーンを上げることで、市のイメージアップにつながるのであれば良い。
- ③ 「清須市らしさ」という差別化は大事である。それがないと、どこの市でも同じような基本構想、基本計画になる。
- ④ 「清須市らしさ」を出すのか、あるいは他自治体と連携を深めるのかは、分野によって異なる。分野に応じてはっきりさせると、市民が安心できる計画になる。
- ⑤ 「清須市らしさ」をもっと出していないと、他の市に負けてしまう。
- ⑥ 清須市が有する地域特性による他の地域との違いは、市民もしっかり自覚する必要がある。「清須市が好きだ」という地域の方々が持つ思いを、しっかりと行政が受止めることができれば、非常に力強い計画となる。
- ⑦ 「安全・安心」を確保することは、目指すことではなく、やらなければいけないこと。「安全・安心」をベースに、「快適」で「魅力」的なまちを作っていくというイメージが発信できると良い。4つの基本理念の最後が全て「目指します」で横並びになっていると、そのイメージが伝わらない。
- ⑧ 清洲城や三本の川の「魅力」に着目し、アピールしていけると良い。
- ⑨ 子どもたちが大きくなったとき、清須市にはこんな場所があると言えるように、みんなで考えてやっていけると、「魅力」あるまちになっていくのではないか。
- ⑩ 清須市の「魅力」が清洲城だというのが、観光地としては、朝日遺跡やキリンビールなどと「連携」して、もっと活気づける必要がある。
- ⑪ 幅広い層の市民や企業が交流・「連携」し、旧町の枠にとらわれず、清須市の一体性が感じられる企画やイベントが増えると良い。
- ⑫ 市民参画会議では、自分たちでまちを変えていこうという議論が多く行われた。こうした市民の主体性を大事にして、育んでいくような要素も、総合計画に取り入れられると良い。
- ⑬ 市の税収をどのように増やしていくか。どうしたら担税力の高い若い世代を呼び寄せられるか。そのための方策が伝わる形が良い。
- ⑭ 何をやろうとしても、経済力を高め、税収を生むような政策をとらないとだめ。

### 2 基本構想における政策の指針について

- ① 政策というのは、防犯対策や防災対策などの施策を幾つか束ねたものと解釈した方が良い。そういう意味で、政策と施策のレベルは第1次総合計画の方が適当。
- ② 素晴らしい市のホームページがあるので、これをもっと充実させて、使いやすくできると良い。
- ③ 退職された方で、社会貢献をしたいという方の受け皿としての方策を、総合計画に盛り込めると良い。
- ④ 観光は実際にはボランティアの方たちが支えている。ボランティアの方たちは、生涯学習を通じて勉強されているということもあるので、「商業・工業・観光」の下に位置付けるのではなく、「歴史・伝統・文化・教育」の下に位置付けると良い。
- ⑤ 外からやって来る人に喜んでもらえるとおもてなしをする側の人も元気になる。そうやってまちを良くするための道具として観光を使っていくと良い。
- ⑥ 現状を考えると、観光の大きな部分は人を呼び込むのではなく、ボランティアで携わっている方が充実しているとか、高齢の方が活躍できる場を提供するようなイメージで、「高齢者のコミュニティ」といったつながりを重視するような方向が合っている。
- ⑦ 観光には色々な意味があるが、一般的には人を呼び込むということ、ひいては地域の経済的な活性化を目指すというところに注力している場合が多い。
- ⑧ 観光によって経済の活性化を目指すのであれば、トイレや駐車場など、インフラをもっと充実させないとだめ。
- ⑨ ボランティアはどここの項目にも入る話なので、ボランティアで括るのはどうか。「観光産業」という括りの方がしっくりくる。
- ⑩ ボランティアをもって、政策あるいは施策の本質的な機能であるという解釈は違うのではないか。1人でも多くの人を呼び込むということ、まずは観光の名目上の最も重要な目的にした上で、副次的な効果としてボランティア、生きがいにつなげてもらうという考え方が良い。
- ⑪ 清須市の目玉として、観光という言葉は是非とも残して欲しい。
- ⑫ 農業というのは大事な産業で、緑地、水辺の活用、環境保全ということとは少し違うのではないか。様々な問題と関連しているので、項目を立てた方が良い。
- ⑬ 今後少子化対策は非常に大事。雇用対策をして、若者に住んでもらうことも必要。
- ⑭ 「男女共同参画社会の推進」は、男女の人権問題に関わることなので、生涯学習の分野ではないか。